

石垣島から繋がる 八重山全島巡り旅

Photo&Text 古見きゆう

取材協力 ダイブステーション ゆいマーレ

Design tomato



01

01/カクレマノミも元気
いっぱいでお出迎え

02/気持ちよすぎる海。思
わず飛び込んでしまいたく
なる



03

03/八重山レギュラーメン
バーのイシガキカエルウオ

04/世界的に見てもマン
タとの遭遇率が高い石
垣島



02



04

「八重山の島々を潜り倒したい！」

多くのダイバーが同じことを思ったことがあるのではないだろうか。

なかなか長い休みが取り難いご時世ではあるけれど、

石垣島を拠点とすれば最小限の日程で、その可能性は格段に広がりみせる。

全島制覇も夢ではない。

八重山暦15年の豊富な経験を生かし、

細やかな判断に沿いその時ベストなポイントをチョイスし潜り倒す。

ダイブステーションゆいマーレが贈る、八重山の島々を繋げる旅、

ダイバーの笑顔をつなげる旅へ出発！



05

05/小振りなサンゴの根
にスカシテングダイが
群れる

06/八重山の青い海に映
えるリュウキュウソバナ



06

石垣島 Ishigaki-jima

豊富な環境が取り揃う最強マルチアイランド



Guide's Voice

大島洋平 (セタボーイ)

石垣の海と言えばマンタスクランブルというイメージが強いと思いますが、マンタ以外にも海の魅力がたくさんあります。「米原Wリーフ」では、青い海と一面に枝サンゴ広がっていてそれだけで癒されます。「崎枝迷路」の浅場は、本当に迷子になりそうな地形が広がっていて、地形大好きな僕のお気に入りポイント。「御神崎エビ穴」のガレ場には、ハゼがあちこちに生息し、洞窟を抜けると枝サンゴの群生が見られます。ビギナーもベテランも楽しめるのが石垣の海です。

とにかくサンゴが美しい「米原Wリーフ」

石垣島から繋がる 八重山全島巡り旅

WEB-LUE 2011. Autumn [Yaeyama Islands]

Information Link
<http://yuimare.com/>

関連情報HPへ

今回の八重山全島制覇の拠点となるのは石垣島。各島々へのアクセスにはじまり、滞在するにあたってのホテルや食事処、スーパーからコンビニや薬局まで生活に必要なものは全て揃ってしまうという抜群の滞在環境が整っている。実はこれ、海の中にも当てはまるもので、石垣島周辺のポイントはとても環境豊かでバリエーションに富んでいる。

今や説明不要の存在でもあるマンタも、従来の「マンタスクランブル」だけでなく、新たに「マンタシティポイント」も開拓された。行けば必ず見ることが出来るという訳ではないが、僕は10年以上石垣の海に通っていて、出会えなかったことは一度もないような気がする。この遭遇率はやはり驚異的なものだろう。



01/水路や岩の隙間には無数のアオギハゼがホバリングをしている

02/インドカエルウオの子供が涙をうかべているみたいでした

03/おもむろに「ET遊び」をはじめ、ゆいマーレ江口さん



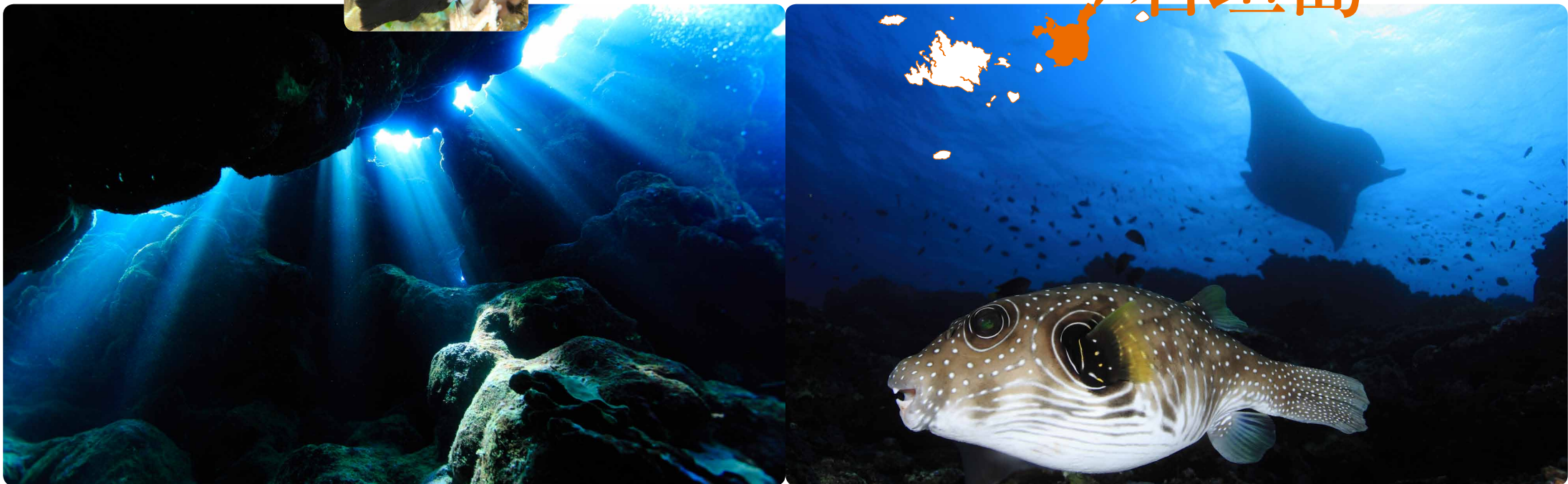
04/真っ赤なベニハゼはフォトジェニックな被写体

05/ウミシダからアサドスズメダイが飛び出してきました

06/クレンアイニセスズメってなんでこんなにも鮮やかな色なのでしょう

サングがお好みならば「米原Wリーフ」がオススメ。幾重にも重なるように積み重なるテーブルサンゴや畑のように広がるエダ状サンゴ。そこに様々な魚が群れるので、贅沢に全部ひっくるめた広い視野で楽しみたい。美しい光の筋が差し込む「崎枝迷路」では探検感覚で地形もサンゴも一緒に楽しむことができるし、大崎周辺や名蔵湾ではブリティ系のお魚や、ちょっぴりオタクなマクロ生物も撮影することができる。なんだかんだ言っても石垣のポイントは奥が深く、シーズンごとに見所が変わる万能エリアなんですね。

石垣島 Ishigaki-jima



「崎枝迷路」の水路は美しい光が降り注ぐ

「マンタシティポイント」(通称MCP)。サザナミフグとマンタのシルエット

石垣島から繋がる 八重山全島巡り旅

WEB-LUE 2011. Autumn [Yaeyama Islands]

Kohama-jima & Aragusuku-jima

小浜島 & 新城島

元祖ちゅら島とリアル竜宮城へようこそ



Guide's Voice

江口(めだか) 和也

小浜のサンゴと言えば「コーラルビレッジ」。沖に伸びた根には、所狭しと群生するサンゴが広がっています。潮流を見て潜る「ヨナラ水道」もオススメ。ダイバーの背丈を越える砂紋が広がる場所。サンゴが延々と続く根。サメ・マダラトビエイ・マンタ・カメ・バラクーダと、予測のつかない生物が現れる。期待値を越えてくるので、何度潜っても楽しいです。

新城島を代表するポイントが「竜宮の根」。この水深で真っ赤なイソバナが群生しているだけでも癒されますが、イソバナを引き立てるように、キラキラと光に反射するスカシテンジクダイと、彩り良くキンギョハナダイの群れが舞っています。竜宮城が実在するなら「きっとこんなところ」と、誰もが感じるポイントです。



01

01/サンゴの丘のような「コーラルビレッジ」の景観

02/真っ白な砂地に突然現れる「竜宮の根」。本当に美しい

03/イシガキカエルウオが道に迷ったようにオロオロしていました

04/キンモドキやグルクンの幼魚が混ざり合い大きな群れとなる

05/こちらアツクチスズメダイの幼魚。シックな色使いが美しい

06/大人になるとたんに情熱的な暮になるアツクチスズメダイ

07/「竜宮の根」の周りは砂紋が美しい砂地だ

08/発光する貝として有名なウコンハネガイ



03



02



07



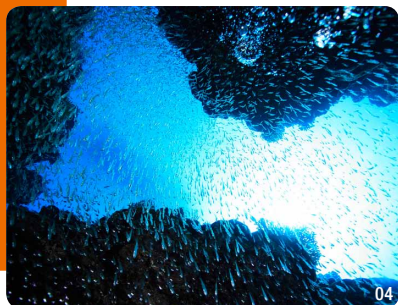
05



06



08



石垣島から繋がる 八重山全島巡り旅

WEB-LUE 2011. Autumn [Yaeyama Islands]

Information Link
<http://yuimare.com/>

関連情報HPへ



Guide's Voice

江口 (めだか) 和也

青・黄・緑、色とりどりのスズメダイや、燃えるような赤色を放つハナダイ。そんな生物がサンゴの上を漂い、極彩色が広がっているのが西表島の北側です。また、ハトマ島では、冒険心駆られる地形と抜群の透明度！カメラ派・水中を漂うことが好きなフワフワ派・そして地形派もマルチに満足するでしょう。ただし、西表島には大きな川が存在する為、水が濁ることが多々あります。天候と透明度の良い時に遠征しましょう。



Iriomote-jima

西表島

サンゴも魚群もモリモリのオーシャンジャングル

潮に乗りアカネハナゴイが美しく舞う「バラス西」

石垣島から繋がる 八重山全島巡り旅

WEB-LUE 2011. Autumn [Yaeyama Islands]



← 関連情報HPへ



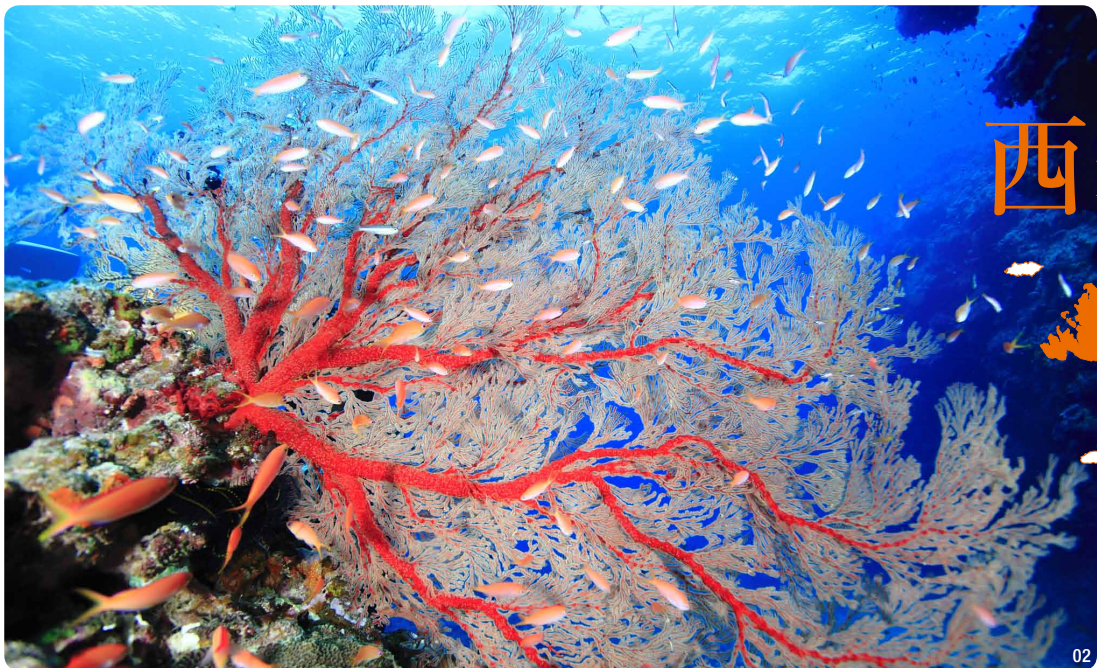
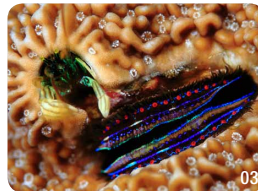
01/美しいエダサンゴの上をキンギョハナダイやアオバスズメダイが覆う「バラス東」

02/「バラス東」のやや深場では大きなイソバナが見物

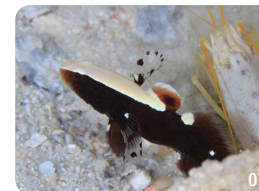
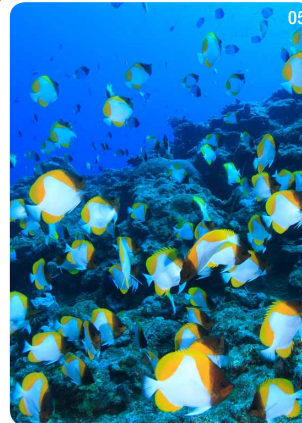
うっそうと茂る原生林に包まれる西表島。常に雲がかかる島には時折折れるスコールが潤いを与え森の緑をいっそう輝かせる。森からの豊穡のエネルギーが海に流れ込むこの海は、まさに海中のジャングルの様相をみせる。「バラス西」では陸上でいうところの風に乗るように、潮の流れに併せアカネハナゴイが星屑のようにフワッと群れる。素晴らしい潮のタイミング。次いで潜った「バラス東」では極上のサンゴの上をデバスズメダイが雲のように群がっていたりと、西表のポテ

ンシャルの高さをまざまざと感じさせられた。島の大きさからなのか、西表の海は石垣島と同様にとても変化に富んでいて、どこも惹き込まれるような魅力がある。そして石垣島にステイしながら西表でも潜ることが出来るなんて、考えてみたらどこまで贅沢な話なのだろうか。

西表でのダイビングを終え石垣に戻る船上でふと、ゆいマーレの江口さんが常々語っていたことを思い出した。「潮のタイミングを常に気にしながら潜るポイントをチョイスしているんですよ」まさにこの言葉の通り、熟練の読みがハマった1日となった。この海域に精通したガイドと潜ると本当に感心させられることばかりだ。



西表島 Iriomote-jima



03/カンザシヤドカリとウミギクガイモドキが会いました
04/とぼけた顔が可愛らしかったゴイシギンボ
05/カスミチョウウオウオが青い海に美しく映える
06/背中にハートマークを背負ったヒフキアイゴ。オシャレですね
07/オドリハゼも小さな穴や窪みを覗くとたくさん見つかる

石垣島から繋がる 八重山全島巡り旅

WEB-LUE 2011. Autumn [Yaeyama Islands]

竹富島 & 黒島 Taketomi-jima & Kuro-shima



和みの砂地とV字のドロップオフ



本当に潜水艦のような形をした岩が鎮座する「サブマリン」



01



02



03

01/ヨスジフエダイがシャワーのようにサンゴのように降り注ぐ。「ジャガイモ」にて

02/動きも表情も可愛いミヤケテグリの幼魚

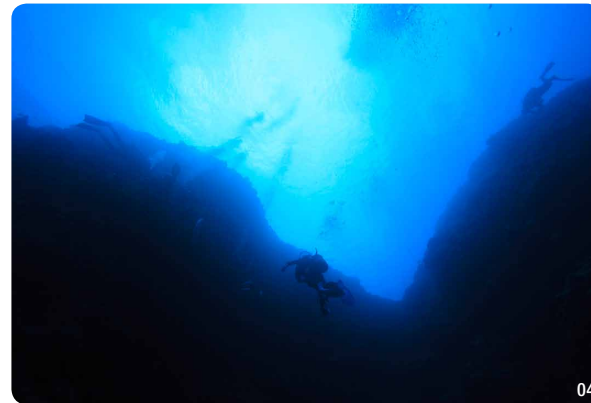
03/空き瓶を利用して生活していたハゼの仲間。綺麗な目が印象的でした

取材直前にスタッフのアキちゃんが「この前ホムラハゼ見つけたんですよ!」と話してくれたのだが、残念ながら今回は見つけることはできなかった。またいつか会おうぞホムラハゼ。島の南西部はドロップオフが売り。名物の「V字」は垂直に落ちる壁を、ハナゴンベなどを見ながら流していくと、V字カットの大きな窪みに辿り着く。水底から見上げるとかっこいい光景だ。ここにノコギリダイやアカヒメジの群れなどが絡んでくるので、様々な絵作りが可能だろう。またこの周辺は冬のマンタポイントとしても有名だ。

小さなウミタケハゼの仲間がついていたり、かなりのフォトジェニック揃いなのだ。こちらも水深は比較的浅めなので、じっくり小さな生き物と向き合える島だろう。

とにかく牛が多いということでも有名な黒島。その数人口の約10倍。もはや牛大国と呼ぶに相応しい。島の周辺は、大きく分けて2通りの表情を持っている。観光船が離発着する港のまわりは、船で通り過ぎるだけで心が躍る美しいソーダブルーの海。「セラピー」は真っ白な砂地にパッチリーフが点在す、ハダカハオコゼやハナヒゲウツボなどもレギュラーメンバーだ。ちなみに、今回の

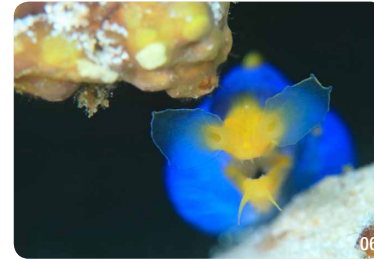
昔ながらの赤瓦の家が建ち並び日帰りの観光などでも人気の竹富島は、ブラブラと散歩気分です歩いているのが気持ちいい。この島でのダイビングもそんな気軽な感じで潜ってみると、いい感じなのかもしれない。砂地がメインとなるダイビングポイントが多く、気楽な気分ですとなく眺めていると、不思議なくらい色々な生物が見えてくる。「リトルクリーチャーズホーム」では無数のギンガハゼ。「ジャガイモ」では警戒心の欠片も持ち合わせていないようなヤシャハゼと、人気どころの被写体がとにかく多い。砂地にポツリと落ちているようなサンゴやホヤ、海藻などには



04



05



06

04/V字の字にバックリと開いた壮観なドロップオフ

05/砂に埋もれるエンの仲間。砂風呂の気分ですかね

06/ハナヒゲウツボがサングラスをかけているようでした

07/深い水の色とスカンテンジクダイが美しい「セラピー」



07

Guide's Voice

伊藤亜起 (アキちゃん)

黒島のダイビングポイントは、大きく分けて砂地と地形です。島の北側には人気のハナヒゲウツボがいて、人慣れているので写真も撮りやすいです。水がよいときはまさに癒しの砂地です。島の西側は、岩盤+ドロップオフで地形を楽しみましょう。冬場にはマンタが水面で捕食している姿もよく見られます!

竹富島には砂地、地形、大物、マクロのオールマイティなポイントが揃っています。代表的なのは砂地でマクロダイブ。島からの雨水が入り混じるのか?汽水域のレアな生物が発見されたりします。反面、地形・大物ポイントは雰囲気が変わりダイナミック!冬場にはイソマグロがトルネード!バラクーダ、ツムブリ、ギンガメアジなども登場します。夏も冬も暑い竹富エリアです。



石垣島から繋がる 八重山全島巡り旅

WEB-LUE 2011. Autumn [Yaeyama Islands]

Information Link
http://yuimare.com/

関連情報HPへ

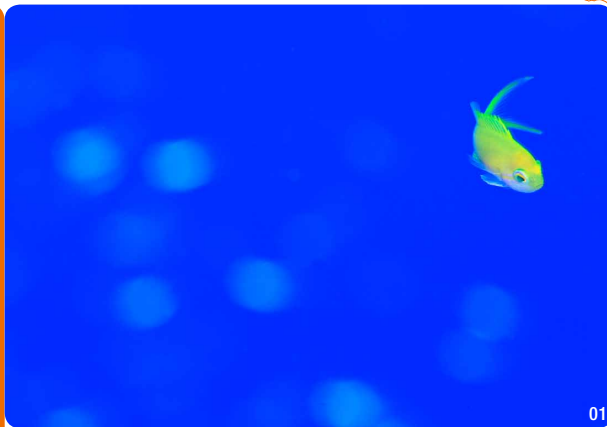
最果ての白い天国



Guide's Voice

大島洋平 (セタボーイ)

何と言っても波照間ブルーと言われるその青さ！船上から見る海の色だけで感動。すぐにも飛び込みたくなるような海がそこにはあります。「アザミ」は真っ白な砂地にガーデンイールがたくさんいて、アザミサンゴのついた根の周りにも無数の魚たちがいます。「クジャク」は浅い砂地にある「クマノミの城」がのんびり出来てオススメです。ハマクマノミがわんさかいて、見ていて飽きません。



01

01/青い海をスミレナガハナダイの幼魚が躊躇しそうに喜んでいました

02/人気のナンヨウハギもサンゴの中に隠れています

03/「クジャク」にはハマクマノミの団地がある

04/真っ白な砂地。50mを超える透明度。興奮と安らぎとを一度に味わえる



02



03



04



透明度だけでなく魚の量も多いのが波照間のスゴいところ

日 本最南西端に位置する波照間島。沖縄の方言でサンゴを「うるま」と呼びばれ、「果てのうるま」から「はてるま」と呼ばれるようになった。なんとも夢が詰まった名前ではないか。海の色は「波照間ブルー」と形容されるほどの美しいブルー。そのまま飲んでしまいたいほど美しい波照間の水は、ひとたび水面をくぐればその存在すらも感じさせない透明度。楽に50m以上は見えるだろうか。こ

れまで世界中の海で潜ってきているが、ここまでの透明度に出会うことはそうそうない。これほど水が澄んでいるのに、魚も多いという素敵な海。きっとこれが八重山の底力なのだろう。

身体が震えるような透明度と、海を彩る魚たち。この島の向こうに神話に出てくるニライカナイが見えるんじゃないかな？そんなことを本気で感じさせてくれる島だ。



05

05/パッチリーフのサンゴにはデバスズメダイやグルクンの幼魚が集まる

石垣島から繋がる 八重山全島巡り旅

WEB-LUE 2011. Autumn [Yaeyama Islands]



01

Shop Information

ダイブステーション ゆいマレ

*

八重山の老舗ダイビングサービスのスタッフとして長く経験を積んだ江口さんが2009年にオープン。全てのゲストに楽しんでもらえるガイドとサービスを提供するために少人数製にこだわり、きめ細やかに八重山の海を走り回り案内してくれる。江口さんが「うちのエース」と信頼を置く、大きな笑顔と笑いが素敵なアキちゃんに加え、「七タボーイ」と呼ばれる大島さんも加わり更にパワーアップした。

ゆいマレのコンセプトは「喜びの共有」。ゆい(結)マレという意味であり、全ての人が繋がり、1つの海で喜びあえるような、誰もが心地よく海を楽しむことができるショップだ。

ダイブステーション ゆいマレ

〒907-0024 沖縄県石垣市新川12371-9

TEL 0980-82-5640

FAX 0980-87-0564

MAIL info@yuimare.com

◎ <http://yuimare.com/>



09

08/おむすび飛ばしてしまいたくなる海なんです

09/美しい景色を背後に、自分撮りを繰り返す江口さん。お茶目ですね



02



04



05



06

01/ダイビング専用船「ODYSSEY」。乗り心地、使い勝手も抜群だ

02/波照間でのインターバルのひととき。眺めのいいテラポットの上で休憩

03/ゆいマレのシンボルマーク「ゆいメダカ」

04/西表に行ったついでに鳩間島にも上陸してみました

05/黒島の淡い水の色を眺めながら休憩中。日差しと海風が最高に心地よい

06/航路を示す赤灯でカットドリが和んでいました

07/スクールのあとにはかなりの確率で虹が出る



03



07

笑顔が集い輪が広がる ゆいマレ Yui-mare

数年前に僕が「情熱大陸」に出演した時には、親友のガイドゆいマレの江口さんにコーディネートをお願いした。「全てはゲストのために尽くしたいです」と語る江口さんは、本当に熱く研究熱心だ。その時々々の状況やカレントを素早く判断し、石垣を中心に八重山諸島の中から最適なポイントに導いてくれる。機動力抜群で、僕も全幅の信頼

を寄せている。またお互いにビール好きなのも嬉しい(笑)。

ゆいマレではダイビングで楽しむことはもちろんのこと、波照間などの遠征時は島に上陸し島内観光の時間を作ってくれたり、黒島に1泊するスペシャルトリップなどなど面白いイベントも盛りだくさんだ。



Recommend hotel at Ishigaki

石垣島ホテル ククル

*

石垣市街地の中心にあるという抜群の立地条件。エントランスから各部屋まで白い内装が美しく、清潔感に溢れる。各部屋には冷蔵庫、無料のインターネット回線などが完備され、そのほかアメニティも充実。ダイバー向けに濡れた器材を乾かすことが出来る乾燥室も完備されているので、居住性、使い勝手は抜群に良い。今年夏から「フォー専門店ククルカフェ」もオープンし更にパワーアップ。笑顔が素敵なフロントスタッフが心地よく迎えてくれます。ちなみに古見きゅうも一押しのホテルです。

〒907-0012 沖縄県石垣市美崎町8-1

TEL 0980-82-3380 FAX 0980-83-4578

◎ <http://www.cucule.jp/>



10



11

10/部屋は広々快適。文句なしの設備だ

11/フロント横に新たに併設された「ククルカフェ」。思わず通ってしまう

石垣島から繋がる 八重山全島巡り旅

WEB-LUE 2011. Autumn [Yaeyama Islands]

Information Link
<http://yuimare.com/>

関連情報HPへ